
会 告

本会創立 60 周年記念行事ならびに記念事業について

本会は大正 4 年 2 月 6 日に創立されましたので、昭和 50 年 2 月 6 日には創立 60 周年を迎えます。本会では来る 4 月の通常総会、講演大会開催時に下記日程により 60 周年記念行事を行なうこととなりましたのでお知らせするとともに、多数会員の積極的ご参加をお願いします。

記念行事 期 日 昭和 50 年 4 月 3 日 (木)

会 場 経団連会館 (東京都千代田区大手町 1-9-4)

1. 記念式典 (9:30~12:30 経団連ホール)

式 辞

祝 辞 (文部大臣、日本学術会議議長、関連学協会代表、日本鉄鋼連盟会長、外国来賓予定)

表 彰 (俵賞—ゴールドメダラー、製鉄功労賞、協会事業功労賞)

名誉会員推挙

2. 記念講演会 (14:40~17:30 経団連ホール)

俵賞受賞記念講演

60周年記念特別講演

映画「日本の鋸」(予定)

3. 記念祝賀パーティー (18:00~ダイヤモンドルーム)

なお記念事業としては次のものを実施いたします。

1. 功労者の特別表彰

創立 10 周年ごとに行なわれている製鉄功労賞、協会事業功労賞および約 3 年ごとに行なわれる俵賞受賞者の表彰が行なわれます。

2. 「鉄と鋼」記念特集号の発行

「鉄鋼技術の進歩」という標題で最近 10 年間の技術と進歩を約 350 ページにまとめたものを、鉄と鋼第 61 年第 5 号 (臨時増刊) として 3 月中旬に発行、全会員に配布いたします。

3. 欧文会誌 Transactions of The Iron and Steel Institut of Japan の年 12 冊発行開始

欧文会誌は、昭和 41 年以来、年 6 冊 隔月発行し今日に至っていますが、投稿論文の増加に対処し内容の一層の充実を図り、学術的に権威ある欧文誌とするため 50 年 1 月から年 12 冊発行とすることとなりました。

4. 「日本の鋸」製作工程の記録

本会は昭和 44 年に島根県吉田村菅谷において、日本古来のたたら製鉄法の復元とその科学的究明を実施しましたが、この際えられた玉鋼を原料として、数少い技術伝承者による鋸の製作工程の映画による記録作成と、工程の科学的検討を行なうこととしております。

第 89 回 (春季) 講演大会討論会開催案内

昭和 50 年 4 月 4 日~5 日開催の第 89 回 (春季) 講演大会における討論会は次の通りとなりましたのでご案内いたします。なお本討論会の概要は本号 (巻末) に掲載いたしております。

I コークス性状の高炉操業に及ぼす影響 座長 中 村 直 人

討-1 操業解析から見たコークス性状の高炉操業におよぼす影響について

鋼管本社 村上 惟司……………A 1

討-2 コークス性状のレースウェイにおよぼす影響

新日鉄基礎研 近藤 真一, 中村 正和, 杉山 喬, 鶴野 建夫…………… A 5

討-3 和歌山第一高炉での成形コークス使用試験

住金本社 赤松 経一, 中技研 羽田野道春

〃 和歌山 神田 良雄, 〇河合 晟, 淡路 宏, 山下 良一…………… A 9

〃 鹿島 岡村 祥三

II 連铸鋳片の表面性状 座長 浅野 鋼一

討-4 連続鋳造スラブ表面疵発生原因および防止法について

鋼管京浜 角南英八郎, 〇山上 諄, 技研 撰待 吉雄…………… A 13

討-5 連铸スラブの表面欠陥防止のための2次冷却パターンについて

川鉄技研 〇野崎 努, 松野 淳一, 村田 賢治, 大井 浩…………… A 17

〃 水島 児玉 正範, 斎藤 達

討-6 薄鋼板用連铸低炭素アルミキルド鋼における表面性状の改善と鋳片手入の省略について

新日鉄名古屋 井上 俊朗, 〇小舞 忠信, 竹村 洋三…………… A 21

岡 賢, 加藤 郁

III 大型鋼材の熱処理 座長 田中 実

討-7 極厚低合金鋼板の製造時の熱処理について

新日鉄名古屋 高石 昭吾, 斎藤 晟, 〇中尾 仁二, …………… A 25

川合 亜之, 山場 暁太, 間淵 秀里

討-8 Mn-Ni-Mo 極厚鋼板の熱処理条件と靱性

川鉄技研 〇榎並 禎一, 佐藤 新吾…………… A 29

討-9 大型鍛鋼軸材の熱処理

日鋼室蘭 川上 辰男…………… A 33

討-10 中実および中空円筒の焼入変形の解析

石川島播磨技研 〇利岡 靖継, 雑賀 喜規…………… A 37

IV 低温用鋼の組織と機械的性質 座長 荒木 透

討-11 ($\alpha + \gamma$) 領域加熱焼入処理による Ni 含有鋼の低温靱性向上の原因

鋼管技研 〇山田 真, 新倉 正和, 田中 淳一, 市之瀬弘之…………… A 41

討-12 Fe-Ni-Mn-C 系オーステナイト鋼の変形による組織の変化と伸び, 靱性の関係

川鉄技研 〇鈴木 重治, 船越 督己…………… A 45

討-13 高 Mn-Cr オーステナイト鋼の組織, 低温靱性および熱膨張率について

新日鉄八幡技研 〇吉村 博文, 清水 高治, 矢田 浩, …………… A 49

八幡 山田 直臣, 製品研 本間 弘之

「鉄と鋼」および「Transactions ISIJ」

広告掲載料金の改訂について

会誌「鉄と鋼」および「Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan」は内容の充実にともない, 会員ならびに購読者も増加し, 発行部数も増刷を続けております。しかしながら最近における諸物価の上昇には著るしいものがあり, 現料金を維持することが困難となつてまいりました。

つきましては, 昭和 50 年 5 月より, やむなく広告掲載料金を下記のごとく改訂いたしますのでお知らせいたします。なにとぞご了承のうえ今後ともよろしく本誌をご利用下さるようお願いいたします。

記

1. 鉄 と 鋼 (第61年第7号より)

表紙	2	1 ページ	105,000 円	表 2 対向	1 ページ	84,000 円
〃	3	1 ページ	90,000 円	前 付	1 ページ	77,000 円
〃	4	1 ページ	120,000 円	後 付	1 ページ	67,000 円
前付本文対向	1	1 ページ	84,000 円	綴 込	1 枚	105,000 円

2. Transactions ISIJ (Vol 15, No 6 より)

後付 1 ページ 77,000 円

※「鉄と鋼」ならびに「Transaction ISIJ」両誌とも上記料金の他に製作費実費頂戴いたします。

3. 広告取扱店 (株)協会通信社 東京都中央区銀座7-3-13 ニューギンザビル

〒104 TEL 03-571-8291

鉄鋼基礎共同研究会 強度と靱性部会シンポジウム開催案内

—— テーマ：鋼の強化組織と延・靱性 ——

標記シンポジウムを下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいませようご案内申し上げます。

I 日 時 昭和 50 年 2 月 26 日 (水) 10:00~17:00

II 会 場 農協ビル 8 階第 2 大会議室

III プログラム

10:00~10:05 開会の挨拶 強度と靱性部会部会長 荒 木 透
その 1—講演と討論

10:05~11:00 Fe-Ni-Mn 系マルテンサイト鋼の強靱性に関する二、三の研究
東京工業大学教授 田 中 実

11:05~12:00 鉄中の転位の挙動に対する不純物の影響
東京大学教授 橋 口 隆 吉

12:00~13:00 休 憩

13:00~14:00 鉄鋼等の延性、靱性に及ぼす時効析出分散の影響
東北大学教授 須 藤 一
座長 荒 木 透

その 2—パネル討論会
14:00~17:00 主題「変態強化組織と延・靱性」

話題提供者(予定): 邦武立郎・中島宏興・長島晋一・船越督己

討論参加者: 強度と靱性部会各委員

IV テキスト 「強度と靱性部会報告書」(約 300 ページ) 1974 Dec. を用います。頒価 2500 円

V 問 合 先 日本鉄鋼協会技術部 小坂勝敏

千代田区大手町1-9-4 経団連会館 3 階 TEL 03-279-6021

第12回理工学における同位元素研究発表会

共催 応用物理学会, 化学工学協会, 日本鉄鋼協会, 他

会 期 昭和50年6月18日(水)~20日(金)

会 場 機械振興会館(東京・芝公園 3-5-8)

発表論文

(1) 内容 それぞれの研究分野において、その専門的成果をうるにいたつた同位元素および放射線の利用の技術に重点をおいた論文と、同位元素、放射線の利用の基礎となる研究論文とします。

研究の内容には、少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とします。

(2) 発表申込み区分 プログラム編成の便宜上、つぎのように申込み区分を設けます。

① 同位元素および放射線の基礎的データに関するもの

② 放射線照射のための線源および装置に関するもの

③ 放射線化学その他照射効果に関するもの

④ ラジオグラフィに関するもの(装置に関するものを含む)

⑤ オートラジオグラフィに関するもの

⑥ 放射線利用計測機器の利用と開発に関するもの

⑦ 放射線利用機器に関するもの(エネルギーの利用、発光塗料なども含む)

⑧ トレーサーの利用に関するもの(安定同位元素も含む)

⑨ 分析に関するもの(安定同位元素も含む)

⑩ 製造、分離、精製に関するもの(安定同位元素も含む)

⑪ 化合物の合成、標識化に関するもの(安定同位元素も含む)

⑫ 放射線測定法および測定器に関するもの

⑬ 安定同位元素の測定法および測定器に関するもの

⑭ 安全取扱に関するもの(遮蔽、施設、設備、器具健康管理なども含む)

⑮ 廃棄物処理、汚染除去に関するもの

⑯ 地球科学、宇宙科学および環境科学等に関するもの(安定同位元素も含む)

⑰ その他

(3) 発表時間 1 件の発表15分以内の予定

発表者の資格 発表申込者が所属する主催学協会の年会(大会)等の規定または慣例に従う。

発表申込み 所定の申込書(1 件 1 通)によりお申込み下さい。所定の申込書は下記あて請求して下さい。

113 東京都文京区本駒込二丁目28番45号

日本アイソトープ協会内
理工学における同位元素研究発表会運営委員会

電話 東京(03)946-7111 (代表)

発表申込み締切: 昭和50年2月28日(金) 必着

講演要旨 講演要旨集を発行します。発表申込みがあり次第、所定の原稿用紙(1,400 字程度)をお送りします。

講演要旨原稿締切: 昭和50年4月15日(火) 必着

そ の 他

(1) この研究発表会の運営は、主催学協会より選出された各1名の委員で構成された運営委員会において行います。

(2) フルペーパーの報文集は特に発行しません。

なお、日本アイソトープ協会の学術機関誌“RADIOISOTOPES”にはこの研究発表会の発表論文にかぎり、同協会会員外でも投稿することができます。

(3) つぎのいずれかに該当する場合には発表をお断りしますから、ご注意ください。

- i) 講演要旨に記述された内容が本研究発表会の趣旨に合致すると認められない場合
- ii) 発表者の資格が、所属主催学協会の規定または慣例に合致しない場合
- iii) 期日までに講演要旨原稿が提出されなかつた場合

第20回材料強度と破壊国内総合シンポジウム

時：昭和50年4月3日(木) 9:25~17:10

所：東京工業大学大講堂

(東京都目黒区大岡山 電話 03-726-1111)

共催 日本学術会議強度と破壊分科会、日本鉄鋼協会
他 協賛 応用物理学会、他

- 9:30 1. 金属材料の繰返し応力による転位構造
京大工 幡中 憲治
- 10:10 2. マルテンサイト・フェライト複合組織を有する鋼材のミクロ及びマクロ破壊挙動
慶応大工 国尾 武, 他
- 10:55 3. 環境安全強度をふくむ破壊問題に対する各種の研究手法論について
東北大工 横堀 武夫
- 13:00 4. 高温強度(高温疲労と繰返し速度効果について) 東大工 鶴戸口英善
- 13:45 5. 耐熱鋼の長時間クリープ破断強さの研究 東大工 藤田 利夫
- 14:25 6. 低温靱性の金属組織学的研究
東北大工 須藤 一
- 15:10 7. 遅れ破壊における破壊力学
新日鉄製品研 飯野 牧夫
- 15:50 8. 高張力鋼ならびにその溶接継手の硫化物腐食割れ特性について
阪大溶接研 渡辺正紀, 他
- 16:30 9. 高温高圧水素による圧力容器材の損傷 日本製鋼研究所 渡辺十郎, 他

参加費無料

シンポジウム論文集 (Proceedings of 20 National Symposium on Fracture)

活版印刷 約130頁, 1部1200円(3月15日まで申込みの分は送料金属学会負担)がありますから、希望者は代金を添えて、3月15日までに下記へお申し込み下さい。(以後は当日会場売り)

申込先 〒980 仙台市大町1丁目1-13(東活ビル内)

Tel. 仙台 (0222) 25-3098 日本金属学会

金属材料の複合負荷における 塑性変形挙動シンポジウム

主催 日本金属学会 協賛 日本鉄鋼協会、他

日時：昭和50年2月10日(月) 9:30~16:00

会場：学士会館(東京都文京区本郷・東大赤門わき)

- 9:30 1. 複合負荷試験の方法と測定例
名大工 戸沢 康寿
 - 10:10 2. ねじり軸荷重をうけた円管の降伏挙動
岡山理大 細川 智生
 - 11:10 3. 広幅引張試験による平面ひずみ変形抵抗
阪大工 加藤 健三
 - 11:40 4. 平面圧縮における降伏荷重
東大工 木原 諄二
 - 13:30 5. 薄板の複合負荷における加工硬化
理化学研 林 央
 - 14:10 6. 板面異方性薄板の軸対称工具による塑性変形
名大工 中村 雅勇
 - 15:00 7. 総合討論
- 前刷 1冊300円 送料55円
○申込先 仙台市大町1丁目1番13号(東活ビル)
社団法人 日本金属学会

第290回座談会・複合材料の現状と将来

協賛 日本鉄鋼協会、ほか

日時 昭和50年4月24日(木) 13:00~17:00

会場 ダイヤモンドホール(ダイヤモンド社ビル10階)
(東京都千代田区霞が関1-4-2 電話(03)504-6779)

- 1. 話題提供 司会 東工大 中村正久君
- (1) 複合材料の現状と問題点
京大工 村上陽太郎
- (2) Advanced Composite の現状と将来
航空宇宙技研 古田 康敏
- (3) NASA における複合材料の開発状況
金材技研 高橋仙之助
- (4) 金属強化用繊維
東芝総研 森田 幹郎
- (5) ウィスカーの現状と将来
東大生産技研 大蔵 明光
- (6) 一方向凝固法による複合材料について
東京医科歯科大 三浦 維四
- (7) 複合材料における界面の問題
東大宇宙研 小原 嗣朗
- (8) 複合材料における力学的諸問題
東大宇宙研 河田 幸三

2. 討論 16:00~17:00

定員 100名(先着順により満員になりしだい締切ります)

参加費 無料

資料 実費頒布

申込方法 会員1名ごとにB6判(会誌半裁)用紙に「第○回座談会申込み」と題記し、(1)勤務先、名称、所在地、(2)通信先、(3)氏名(ふりがな)、(4)会員資格をご記入の上、下記あて

お申込みください。

参加決定者には締切後参加券をお送りします。

申込締切 昭和 50 年 4 月 11 日 (金)

申込先 日本機械学会

**原子力構造機器の材料・設計・施工・
検査に関する講習会 (案)**

主催 日本溶接協会 後援 日本鉄鋼協会、他

1. 期 日 昭和50年 3 月 17 日 (月), 18 日 (火),
19 日 (水) 3 日間

2. 会 場 私学会館 7 F 講堂
(東京都千代田区九段北 4-2-25
T E L (03) 261-9921 (大代表))

3. 定 員 100 名 (2 月末日締切)

4. 聴講料 ◎ 35,000 円 (下記資料, テキスト代を
含む) 原子力研究委員会 会員会社は
30,000 円

5. テキスト

1. 高速炉構造材料に関するもの A 4 判総 150 頁
2. 原子炉材料の疲労とクリープの相互効果を
考慮した構造設計基準に関するもの B 5 判約 300 頁
3. 原子炉耐圧部の不安定破壊に対する安全基
準に関するもの B 5 判約 300 頁
4. 原子炉構造機器の材料・設計・施工・
検査に関するテキスト A 4 判約 300 頁
プ ロ グ ラ ム

第 1 日 (3 月 17 日)

- 9:10 高速炉蒸気発生器の溶接施工上の課題
— F R W 小委員会の研究に関連して—
金材技研 稲垣 道夫
- 10:40 高温疲れと熱応力問題
— F C I 小委員会の研究に関連して—
原 研 宮園昭八郎
- 13:00 高速増殖炉「もんじゅ」の概要 (予定)
動力炉核燃料開発事業団 大山 彰
- 14:40 J P D R の配管われの調査研究 (予定)
原 研 鳥飼 欣一
- 15:50 新型転炉の構造強度に関する課題 (予定)
動力炉核燃料開発事業団 明比 道夫

第 2 日 (3 月 18 日)

- 9:30 軽水炉容器の不安定破壊の課題
— 3 U B 小委員会の研究に関連して—
鋼 管 越賀 房夫
- 11:00 原子力機器に関する最近の課題
東 大 安藤 良夫
- 13:00 最近の非破壊検査技術の進歩
阪 大 仙田 富男
(I H I)
- 14:40 B W R の検査の課題 (予定)
- 15:50 P W R の検査の課題
三菱重工 山口 富夫

第 3 日 (3 月 19 日)

- 9:30 多目的高温ガス炉の開発 (予定)
原 研 村田 浩
- 11:10 高温ガス炉の構造強度の課題
— S P N 小委員会の研究に関連して—
東 大 矢川 元基
- 13:30 高温設計技術の進歩 東 大 鶴戸口英善
- 15:00 パネル討論
高温構造および材料の課題

(お申込みについて)

- ◎ お申込みは添付の受講申込書をご利用下さい。
- ◎ 受講料はつぎの何れかの方法でご送金下さい。
 - ・現金書留 東京都千代田区佐久間町 1 の 11
日本溶接協会原子力研究委員会宛
 - ・銀行振込 三和銀行岩本町支店
日本溶接協会宛
- ◎ 申込受付次第受講券および受講料領収書をお送り
いたします。
受講券はご出席の際受付にお示し下さい。
(但し受講券の送付は入金と同時にいたしません)
- ◎ 定員に達し次第締切りますから、なるべく早目
にお申込み下さい。
締切りの場合は、その旨連絡いたしますから連絡
先をご明記下さい。
- ◎ テキストおよび食券は、当日会場受付でお渡し
いたします。

(講習会事務局)

社団法人 日本溶接協会原子力研究委員会
東京都千代田区神田佐久間町 1-11
産報佐久間ビル 電話 (253) 0581~3 (直通)

第 31・32 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— テーマ：鉄鋼の電子論と新しい構造解析 ——

主 催 日 本 鉄 鋼 協 会

第31・32回西山記念技術講座を下記により開催いたしますので、多数ご来聴下さるようご案内いたします。

I. 開催場所

第 31 回（東京）昭和 50 年 2 月 13 日（木）、14 日（金）

農協ホール（千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階）

第 32 回（仙台）〃 2 月 27 日（木）、28 日（金）（予定）

東北大学金属材料研究所

II. 演題ならびに講師

第 1 日	9:30~12:00	電子論入門（固体、融体の電子）	東北大学工学部	田 中 実
	13:00~15:00	鉄中の電子（弾性、磁性、伝導性、合金化合物の電子）	名古屋大学工学部	安 達 健 五
第 2 日	15:00~17:00	陽電子消滅の鉄鋼への応用	東京大学工学部	堂 山 昌 男
	9:30~12:00	鉄鋼の構造解析とメスバウア効果	大阪大学基礎工学部	藤 田 英 一
	13:00~14:30	低エネルギー電子線におけるスペクトロメトリ	学習院大学理学部	村 田 好 正
	14:30~16:00	中性子線回折の応用	東京大学物性研究所	伊 藤 雄 而

III. 講演内容

電子論入門（固体、融体の電子）

田 中 実

鉄属の金属のみならず、広く金属全体の特徴である導電性、展延性あるいは良伝熱性といった性質について、原子論的立場から理解してゆくために、それ等に対して主役を演ずる金属内電子系の主要な特性について解説する。結晶常態に対して、熔融状態での電子系の特性、構造敏感な性質にもふれるが、簡単なアルカリ、アルカリ土類金属と鉄属との比較を中心に、今回の各講演題目へのいとぐちとなるようにしたい。

鉄中の電子 安 達 健 五

1. 鉄原子の電子状態と金属鉄の電子エネルギー — エネルギーバンドの構成 —
2. 鉄のエネルギーバンドと物性 — 磁性、電導性、熱的性質 —
3. 鉄の凝集エネルギー — 体心立方鉄と面心立方鉄、弾性 —
4. 鉄合金の物性、鉄を含む化合物の物性

陽電子消滅の鉄鋼への応用 堂 山 昌 男

電子の反粒子である陽電子を鉄鋼など金属中に注入し、消滅による γ 線の角相関、エネルギー、スペクトル、陽電子の寿命をはかることにより鉄鋼および金属中の電子状態が研究できる。またこの方法は鉄鋼および金属中の格子欠陥に非常に敏感であるので、格子欠陥の研究として、たとえば鉄鋼中の原子空孔、転位、加工、照射損傷の研究の新しい手段として脚光を浴びてきている。また不純物原子、相変態、凝固、熔融状態の研究にも使われる。この他非破壊検査の新しい方法としての可能性も説明する。

鉄鋼の構造解析とメスバウア効果 藤 田 英 一

鉄鋼、その他の金属材料および化合物の組織、構造を解析する方法の一つとして、メスバウア効果の有用性、特異性、およびその限界を、特に X 線・電子線回折などの回折による方法と比較して説明する。後者の方法に比べて、メスバウア効果は、短範囲の原子配列、局在的な電子構造、磁気的な構造などを見るのに適している。解析の方法実験の方法などに独特な点があるので、それらについて、鉄鋼を実例としてわかりやすく解説をする。

低エネルギー電子線におけるスペクトロメトリ 村 田 好 正

低エネルギー電子のスペクトルは固体の表面的構造、電子状態などの研究、表面での分析に有用な方法であるが、それはどのようなものか、どのような特色があるか、またどのような結果が得られているかなどについて述べる予定である。

中性子線回折の応用 伊 藤 雄 而

物質中の原子及び電子のさまざまな配置や動的な振舞いを実空間で見ようとする従来の構造解析に比べて、中性子散乱の方法では時空間のフーリエ変換を通して運動量・エネルギー空間、いわゆる $(\vec{q}, \omega)$ の世界でこれら原子相関を直接見ることができ、新しい構造解析の手段を提供している。それはミクロな物性の理解のみならず、マルテンサイト変態、水素の金属や拡散、格子欠陥等応用的立場からも重要な諸問題の基本的理解に役立ちつつある。

IV. 聴講無料（事前の申込みは必要ありません）

V. テキスト 2500 円

VI. 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課 千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-6021

昭和 50 年秋季 (第 90 回) 講演大会討論会

討論講演募集のお知らせ

昭和 50 年秋季 (第 90 回) 講演大会 (北海道大学開催) に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。なお、本討論会申込用紙は前号会告末に添付されております。

1. 討論会テーマ

1) 高炉内における装入物とガスの分布について 座長 島田 俊作

高炉操業に於て適正な装入物の分布が得られれば、炉内に於けるガス流れを適正となり良好な高炉操業成績を得ることが出来る。近年ムーバブルアーマー、ポールウルス式装入装置などの新しい装入物分布調整装置が開発されるとともに、炉内に於ける装入物とガスの分布を明らかにするための検出端を導入され、炉頂部に於ける装入物とガスの分布の制御技術は格段の進歩を遂げたといえる。

しかし炉内に於ける適正な装入物とガスの分布は、炉頂における分布制御のみで十分とするか、現在どのような問題点が残されているか、を討論し今後の指針を得たい。

2) ESR 法の精錬と铸塊の品質 座長 井上 道雄

ESR 法は周知のごとく一種の特殊精錬法というべきもので精錬の立場からのみならず、積層凝固による铸塊の特性という観点からも材質の向上に期待されるところが大きい。1973 年わが国において ESR 国際シンポジウムが開かれ、この分野の基礎的研究面にも多くの関心が高まってきたと思われる。この機会に ESR に関する諸問題を把握し将来の発展の基礎づくりをしたいと考えているので、精錬反応の物理化学 (電気化学的特性、凝固過程を含む) 非金属介在物の挙動などに重点をおいた講演を期待する。

3) 圧延 (熱間および冷間) における潤滑の諸問題 座長 鈴木 桂一

圧延油を主体とした圧延の潤滑については、多くの未解決の問題があり、圧延条件がきびしくなるに従い、さらにその問題は複雑化して来る。

今回は、圧延油そのもの、圧延油の供給方法、あるいはそれらの設備などについて討論会を開きたいと思ひます。パーム油によるダイレクト圧延から、鉱油ベースのミルククリーン用圧延油にいたる冷間圧延用圧延油、最近活発に使われはじめた熱間圧延用圧延油、すべてを対象にしております。奮ってご応募下さい。

4) 高温における加速酸化 座長 染野 檀

高温における加速酸化に及ぼす諸因子は非常に複雑多岐にわたり、そのため試験法も確立していない状態であります。

この討論会では、i) 試験法、試験条件と耐酸化性の評価、ii) 新しい耐酸化、耐熱材料、iii) 加速酸化機構、などについての実験的研究、従来の研究結果に対する検討、あるいは新しい提案など多数の発表と活発な議論の展開を期待しています。

2. 申込締切日 昭和 50 年 2 月 10 日 (月)

3. 申込方法 本誌綴込みの申込用紙 (クリーム頁末) に必要事項ならびにアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿 昭和 50 年 5 月 12 日 (月)

締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表、図、写真を含め 6700 字) にタイプ (12 点) 印書あるいは黒インクまたは墨で楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・「鉄と鋼」第 61 年第 9 号 (昭和 50 年 8 月号) にて発表いたします。
講演者の発表

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 61 年第 10 号 (9 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募 昭和 50 年 9 月下旬

締切日 前記第 10 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛て送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021 (代)

鉄鋼基礎共同研究会・再結晶部会報告書
「鉄鋼薄板の再結晶及び集合組織」

昭和 50 年 1 月完成 定価 4,500 円

B 5 版 2 分冊 総 476 頁

鉄鋼基礎共同研究会「再結晶部会」は昭和 45 年 4 月発足以来「薄鋼板製造技術の基礎としての再結晶現象および集合組織」に焦点を合わせて共同研究を進めてまいりました。本年 3 月部会活動を終了するにあたりその間の研究成果をふまえ、さらに広く最近の主要研究データを網羅した報告書を作成いたしました。

この報告書が薄鋼板製造技術のみならず、広く鉄鋼材料製造技術上の再結晶を伴う諸過程の研究の資料として役立つことを確信いたします。本書は第 1 分冊（本文）と第 2 分冊（図、写真、表）よりなっております。

執筆者 東京大学 阿部 秀夫、小原 嗣郎、石田 洋一
金材技研 古林 英一
新日鉄 長島 晋一、速水 哲博、松尾 宗次
日本鋼管 久保寺治朗、稲垣 裕輔
川崎製鉄 大橋 延夫
住友金属 寺崎富久長、金子 輝夫
神戸製鋼 須藤 正俊

目次

- 第 1 章 鉄鋼の再結晶と粒界移動
- 第 2 章 結晶粒界の構造と粒界移動の機構
- 第 3 章 低炭素リムド鋼板の再結晶および再結晶集合組織
- 第 4 章 低炭素アルミニウムキルド鋼板の再結晶および再結晶集合組織
- 第 5 章 低炭素鋼板の再結晶集合組織に及ぼす炭化物形成元素添加の影響
- 第 6 章 低炭素鋼板の再結晶集合組織に及ぼす銅添加の影響
- 第 7 章 薄鋼板の成形性と組織の関係
- 第 8 章 正極点図による集合組織測定法

鋼の連続鑄造に関する文献目録有償頒布について

このたび、日本鉄鋼協会技術部で鋼の連続鑄造に関する文献目録を編集いたしましたので御案内申し上げます。

1. 内 容

この連続鑄造に関する文献目録は、先般、現時点までの鋼の連続鑄造に関して集大成された日本鉄鋼協会編の鉄と鋼・第 60 巻の「鋼の連続鑄造」に参考文献として掲載されたものから、鉄鋼協会の資料室保有の図書を中心に抜きだして作成したものです。

その構成は邦文（220 件）、欧文（148 件）に分けてあり、雑誌名別かつ年代順に分類収録してあります。また内容としては、できるだけ簡略になるよう文献題名と内容を表わすキー・ワード的な項目をあげて示した。編集者としてはあくまで文献目録ということに徹し、われわれの身近かな図書で鋼の連続鑄造に関する文献としてどういったものがあるかを参考提示することを基本的な方針として編集しました。

2. 価 格 500 円

3. 申込方法 書名、部数、送付先、明記のうえ代金を添えて、現金書留にてお申込み下さい。（送料本会負担）

4. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会技術部 (03-279-6021)

技 術 資 料 紹 介

当協会共同研究会計測部会では、昭和 49 年 9 月 1 日付の熱電対と補償導線の JIS 改正に伴ない、その実施に当たって移行手順をまとめて、このたび「新温度標準実施検討グループ報告書」を刊行いたしました。

内容は鉄鋼業を対象としたものでありますが、一般の計測担当者にも有効に利用いただきますようご案内申し上げます。

書 名 「新温度標準実施検討グループ報告書」

内 容 I. JIS 改正の内容、II. 改正の影響、III. 移行の手順、IV. 計器の改造について、
V. メーカーのアンケート結果、VI. その他

価 格 2,000 円

申込方法 書名、部数、送付先を明記の上代金を添えて、現金書留にてお申込み下さい。（送料本会負担）

申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会 技術部 TEL (03) 279-6021